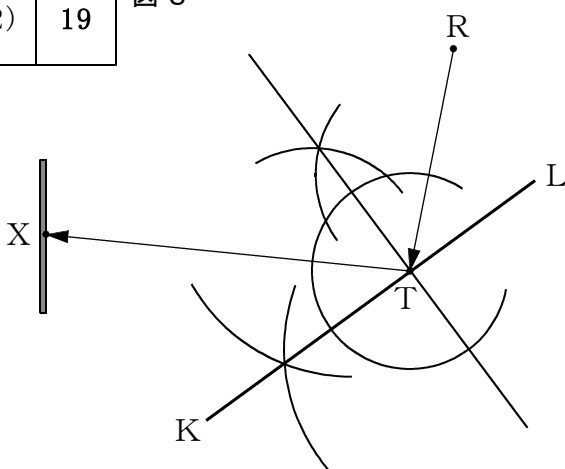


令和3年度中学校第2学年数学正答表

大問	小問	通し番号	正 答	備 考	大問	小問	通し番号	正 答	備 考
1	(1)	1	2, 13	すべてできて正答	4	(1)	13	① 675 (分)	
	(2)	2	イ				14	② 16 (%)	
	(3)	3	ウ				15	③ イ	
	(4)	4	A ( 2 , <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">-6</span> )			(2)	16	<p><b>例</b> 2年生と3年生の2つの度数分布多角形が同じような形で、3年生の度数分布多角形の方が、2年生の度数分布多角形より右側にある。したがって、3年生の方が2年生より、テスト前の家庭学習時間が長い人の割合が多い傾向にあるといえる。</p> <p>備考 (a) 3年生の度数分布多角形の方が右側にあること (b) 3年生の方が2年生より、テスト前の家庭学習時間が長い人の割合が多い傾向にあること ※(a), (b)が記述できていれば正答</p>	
2	(1)	5	① $500x + 800y$ (円)		5		(1)	17	① $\perp$
		6	② <b>例</b> 1個500円の弁当の販売個数は、1個800円の弁当の販売個数の2倍以上である。	指定された言葉を用い、同様のことが書けていれば可		18		③ BHS	両方できて正答
	(2)	7	① 36 (個)			(2)	19	<p><b>例</b></p>  <p><b>例</b> 仮平均を150個とすると、  <span style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <b>例1</b>  <math>150 + \{ (+8) + (-13) + 0 + (-9) + (+10) + (+23) + (+16) \} \div 7 = 150 + 5 = 155</math> </span>  <b>例2</b>            販売個数と仮平均との違いの部分の平均は、  <math>\{ (+8) + (-13) + 0 + (-9) + (+10) + (+23) + (+16) \} \div 7 = 5</math>            仮平均の150個に、求めた平均の5個をたす。            だから、月曜日から日曜日までの弁当の販売個数の平均は <span style="border: 1px dashed black; padding: 0 2px;">155</span> 個である。            備考            (a) 仮平均を使って平均を求める式や言葉を記述していること            (b) 平均155個            ※(a), (b)の両方できて正答         </p>	
		8	②						
3	(1)	9	① $(a =) 10$		5	(1)	17	② $\text{E}$	
		10	② $12\pi$ (cm)				18	④ $\text{ア}$	
	(2)	11	① イ			(2)	19	<p><b>例</b></p> <p>【<math>\angle RTX</math>の二等分線】            ① 点Tを中心とする円をかく。            ② ①の円と直線RT, XTとの交点をそれぞれ中心として、等しい半径の円をかく。            ③ ②の2円の交点と点Tを通る直線をかく。            【<math>\angle RTX</math>の二等分線上の点Tを通る垂線】            ④ ①の円と<math>\angle RTX</math>の二等分線との2つの交点をそれぞれ中心として、等しい半径の円をかく。            ⑤ ④の2円の交点と点Tを通る直線がKLとなる。</p> <p>備考 作図方法が正しければ可</p>	
		12	② <b>例</b> 中心角の大きさや半径の長さの関係を表す式に $y = 8$ を代入して、 $x$ の値を求める。						